

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100042		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム大池	(ユニット名 Aユニット・Bユニット)	
所在地	福岡県福岡市南区寺塚2丁目8-10		
自己評価作成日	平成24年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「寛ろぎの中でゆったり楽しくその人らしく」の理念のもと、ひとりひとりの思いや希望をかなえられるように努力している。 ・家庭的な雰囲気や居心地のよい環境作りや心掛けています。 ・ボランティアの方も定着しており、さらに地域の方との交流機会を増やしたいと努めている。 ・ホームでの行事や外出等楽しめる機会を多く取り入れており、利用者や家族の方々も楽しみにしている。 ・1階のデイサービスの活動参加や利用者の方との交流ができています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>基本理念にある、その人らしさをベースとし、人としてのありかたを常に大切に考え、利用者に関わっている管理者の下、最高齢104歳の利用者とともに20代から60代の職員が、明るい笑顔と会話にあふれた毎日を送っている。ホームはマンションや住宅地の中にあるが周囲の光景に違和感なく溶け込んでいる。日々の散歩や職員手作りのベンチに腰掛けての日光浴、近隣へのショッピングは開設以来継続され、地域住民として積極的に関わろう努めている。利用者や家族の意向にそった外出支援も多く、外部からのボランティア活動も充実し、実習生の受け入れ等も含め多くの交流があり、利用者や職員の心の豊かさともつながっていることが感じられる。今後、今以上の充実と成長が期待されるホームである。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成24年4月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で安心した暮らしの継続、その人らしい生活ができることを目的としている。方針や目標を理解するために、業務前の理念の確認、業務やカンファレンス、スタッフ会議の中で、介護の在り方を理念と照らし合わせ、考えながら実践につなげている。	開設当初職員全員で、事業所独自の理念を作り上げている。毎日始業前に唱和するとともに理念を全員で理解し実践していくためにテーマを考え取り組み、職員は何をすべきかを常に心がけて行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけたり、挨拶や会話をしている。公民館・町内行事・さくら教室等に参加、地域ボランティアさんによる活動も定着し、近隣の方を誘ったりの取り組みをしている。	地域行事や公民館サークルへの参加、子ども達が訪れての踊りや楽器演奏、朗読等、また小学校のベルマーク等の回収協力等を通しての交流がある。ボランティアの訪問活動も多く、近隣への散歩や商店街への買い物等、地域との日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、認知症や介護に関する相談等を受けている。実習生の育成、地域やボランティアの方々へ認知症について理解して頂くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動やサービスの実際を報告し、意見交換や評価を得ている。認知症の理解や地域の情報を得る機会となっている。その意見等を今後の取り組みに活かせるよう努めている。(2ヶ月に1回開催)	区社協、校区PTA会長、民生委員、包括支援センター、家族の参加で行われている。地域性を鑑み公民館との関わりをどのようにもっていくべきか等のアドバイスをもらっている。利用者が新規入居の際はホームでの様子等についての意見を聞く機会を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所に関することや介護保険の更新、生活保護に関する事など日頃から連絡を密にしている。南区のキャラバンメイト連絡会に参加(認知症サポート研修受講、養成講座開催など)	区のキャラバンメイト連絡会に参加し、南長住での協力支援を行っている。生活保護入居の方もおり、区の担当者とは定期的に連絡を取り合っている。聾唖の方が入居した際は社協を通じ手話教室の協力を得る等している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアや高齢者虐待防止法等について外部研修の参加や勉強会を行なっている。その方の特性を理解し、見守り・声掛けを徹底し、一人ひとりの状態に合わせた援助に取り組んでいる。施錠については常に開錠して、自由に入出入りできる環境である。	身体拘束防止委員会を設置しており、外部研修参加や勉強会を積極的に行い、標語を作り実践状況を各自で評価する等、身体拘束や虐待に対する職員の高い意識がみられる。日中出入り口の施錠はせず、利用者が外に出たいとの要求があれば、職員の業務を優先することなく本人の意向をくむように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加、勉強会やカンファレンス等を実施し、高齢者虐待防止法について学んだり、問題提起をして話し合う等の取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できるだけ多くの職員が外部研修に参加して学ぶ機会を作っている。身近な事例を通して、制度を学ぶように取り組んでいる。家族には資料を提供して概要等を伝えている。(現在、成年後見制度の利用者2名)	多くの職員が、外部研修で学ぶ機会を設け、スキルアップにつなげている。スタッフ会議や運営推進会議、家族会(年2回)でも説明を行っている。玄関フロアには権利擁護に関しての掲示があり、現在2名の方が成年後見制度を利用しており、1名の方が利用手続き中である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、丁寧に説明し、同意を得ている。事例を挙げて詳しく説明し、理解や納得を得るように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活をする上での不安や不満、希望に関しては、定期的に聞いている。又、日頃の言葉や態度から思いを察するよう努めている。また、運営推進会議や家族会等を通じて、家族の思いや意向の把握に努めている。出された意見は、職員間で話し合い、解決やケアに活かすようにしている。	運営推進会議や家族会での交流や、家族の訪問時は、家族の思いや意見が言いやすいように心がけている。利用者よりアンケートをとると共に不安や不満、意向をくみ取れるように、日ごろの言動や様子観察に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会、朝礼等の時、日頃からコミュニケーションを図り、運営に反映するようにしている。個人面談を行い、素直な意見等を話し合える機会を作っている。	管理者は運営や人事のこと、新しい入居者の情報等を伝えるとともに、常に話しやすく、意見も出しやすいような雰囲気や環境づくりに努めている。また、個人面談を通して意見を言える機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは、常に情報交換を行い、個々の職員の業務状況や日頃の努力や成果等を把握している。職員一人ひとりの個性を尊重し、意欲や向上心が持てるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフ募集、採用に関しては、年齢等の制限はない。介護観や人柄を重視している。スタッフの能力を勘案し、その能力が発揮できるような関わりをもつように努力している。(特技の発揮・各委員会の担当など)	採用にあたって性別、年齢による排除はない。職員それぞれの特技や能力を発揮できる活動や取り組みが行われている。手芸や料理、夏祭りでの楽器演奏や踊り、玄関前には職員手作りの木製ベンチやミニブランコ等が置かれている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、理念を踏まえて人権尊重や思いやりを意識した現場指導に努めている。カンファレンスや勉強会時、関連づけながら考えさせている。又、研修や講座にも参加している。参加した者は他職員に必ず伝達している。	管理者は理念を踏まえ“人として”のありかたを常に意識付けした関わりを持つように努めている。「さくら教室」での僧侶の講和やケアマネジャーの研修での人権学習の内容伝達をまんべんなく行ったり、身体拘束防止委員会の標語に対する自己評価実施等、啓発に向けての活動に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修計画を立案、受講に偏りがないうように調整をしている。研修報告は勉強会や朝礼にて報告。報告書や研修資料は閲覧するようにしている。又、スタッフ会議で事例検討を通して学ぶ機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に参加し、近隣事業所との交流や情報交換の場となり、介護実践に役立っている。地域認知症ケアやサービスに関する情報を共有できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時には、必ず、ご本人と面談し、心身の状況や思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。又、今までの生活様式、環境があまり変化しないように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯等についてゆっくりと傾聴するようにしている。家族の思いを受け止め、話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階につなげている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況を確認し、相談支援を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては、他事業者や医療機関等に相談し、サービスにつなげている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。利用者の方から励ましを受けたりする事も多く、互いに協働しながら生活している。利用者ご本人の得意とする事ができるような関わりや役割を持ってもらい、労いや感謝の思いを伝えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細やかに伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人が支えていくための協力関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の活動に参加したり、好きなことを定期的に継続できるように努めている。馴染みの知人と交流したり、行きつけの美容室に出かけたりご本人の活動を支援している。	利用者の教え子が、定期的に訪ねてきたり、外泊し家族とともに美術館やデパートに行くことを継続するための支援や、行きつけの美容室に行くこと等、馴染みの関係を続けられるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、職員は理解できている。みんな楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作り等、職員が調整役を務めている。又、利用者同士もお互い尊重し合える関係が見られる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も継続した関わりが続いているケースもあり。家族より、利用者の紹介や相談を受けることもある。又、近くに来たからと訪ねて来られる。今後も継続的な関わりを大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いや意向を汲み取れるよう努めている。ご家族にも確認し、その思いも把握するようにしている。一人ひとりの思いに関する情報はカンファレンス等で検討共有し、実現に向けて努力している。	日頃の会話の中で「～がしたい」「～と思う」等、利用者の思いや意向を把握できるように努めている。意思の疎通の困難な方は、家族や関係者等から話を聞き、担当者会議では、利用者本位に実現に向けて検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者等から、聴き取りをしている。(生活歴・環境・暮らし方等)利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどのような生活を希望されているのかを確認している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握・理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。出来ることに着目した関わりに努めている。(センター方式)		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意見を聞き、プランに反映するようにしている。計画作成担当者が中心となり、ご本人やご家族の意向をまとめ、カンファレンスにて協議し、利用者本位の介護計画を作成している。(できるだけ評価会議には、本人・家族にも出席して頂くようにしている。)	普段の援助の中で、利用者の思いや意見を聞くことに努めている。計画作成担当者と職員は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、利用者本位の現状に合った介護計画を作成している。身体の変化や精神面に配慮しながら、より良いケアのあり方や毎月の評価をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、食事、水分量、排泄等の身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づき等を記録している。職員は、勤務開始前に確認して申し送りを聞くようにしている。又、個別の記録を基に介護計画の見直し評価をしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、外出や外泊の送迎、利用者の希望する場所への外出支援等対応している。医療連携体制を活かした協力医院との連携。かかりつけ医への受診介助、入院先の医療関係との連携等を実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の活動に参加したり、ボランティア活動を通じて交流を深めている。今まで参加していた活動を継続することは、楽しみになされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続や協力医療機関の利用について相談し、ご本人、ご家族の意向に沿って支援をしている。在宅医療機関は、定期往診、緊急時の対応は常時可能である。かかりつけ医、その他特別な診療が必要な場合は、家族と協力し通院介助をしている。	受診は、利用者、家族の希望を大切にして、かかりつけ医と連携をとり支援している。管理者(看護師)、職員は体調変化に応じた適切な医療が受けられるように家族と協力して支援している。また、在宅医療として月に2回の定期往診を実施している。AEDの利用や痰の吸引について検討中でもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師有資格)を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。管理者とは24時間常に連絡が取れる体制になっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、面会は頻繁に行っている。入院先の医療関係者と症状の確認を行ったり、カンファレンスに参加する等、早期退院に向けた支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合い、安心した終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。状況の変化に伴い、その都度、ご家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有している。チームで連携を図りながら支援している。	利用者や家族の気持ちを大切にして話し合い、安心した終末期を迎えられるように支援している。現在、たけとみクリニックと同意契約を交わし、看取り介護を行なっている(1名)。過去に、家族、医療等との連携のもとに、4名の看取り経験がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応。日頃から状態観察を行い、異常時の見極め、些細なことでも、管理者に報告し、指示を得るようにしている。又、定期的な勉強会にてマニュアルの徹底、事故発生時の対応等を学ぶようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って対応。定期的な勉強会により、マニュアルの周知徹底に努めている。年2回、利用者と一緒に避難訓練を行い、その内1回は消防署立会のもと、夜間想定訓練も実施している。地域の方、ご家族の方の参加あり(毎月15日に防災自主点検実施)	定期的(毎月15日)に非常ベル、消火器、誘導灯等の防災自主点検を行っている。年2回、避難訓練を行い、消防署立ち合いのもとに、利用者の家族、地域の方の参加もあり、協力体制を築いている。全職員は、防災マニュアルに沿っての対応が実施できる。	地域の方とは日頃から交流関係ができているところなので、さらに事業所の災害対策に関する理解を求め、地域の消防団とも協力体制が構築できるように取り組んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を傾聴し、思いを否定しない対応とさりげない対応を心掛けている。日々のケア、関わり方を振り返り、利用者のプライドやプライバシーを損ねないように努めている。	グループホームの理念を常に意識し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。排泄介助時等は、他の利用者には気付かれないう誘導する等の対応を行なっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人が意思決定ができるような声掛けをしながら、決定できるように支援している。言葉で十分に意思表示できない場合であっても、表情を読み取り、その人らしい希望を引き出せるように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての流れはあるが、その時の本人の気持ちを重視して、無理強いせずに見守っている。一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。(起床時間、食事時間、入浴時間等ご本人のペースに合わせて実施している。)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向や好みで選べるように援助している。自ら化粧をされる方もおられ、出来る限り、長く続けられるように支援している。TPOに応じた装いをしてもらえるよう心掛けている。行きつけの美容室、毛染め等その方に合わせて対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にテーブルを囲み会話をしながらゆっくりと食事ができるように取り組んでいる。利用者のリクエストを献立に入れる等、食事を楽しめるようにしている。介助が必要な方は食べやすい形態にし、その方のペースで食べられるよう配慮している。又、好きなものを個別に提供したりしている。	栄養バランスの取れた献立を季節の食材を使用しており、一人ひとりの好みやペースに配慮しながら楽しく食事ができるように支援している。また、利用者の力を活かし、野菜の下ごしらえ等と共に、職員も一緒に食べている。月に2回、ボランティアによる手打ちそばの日は、利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量、水分摂取量の記録を行い、摂取量が少ない利用者へは、声掛けを行い、促している。場合によっては高カロリー飲料で補食している。肥満や糖尿病のある方に対しては主食をマンナン米に変更する等対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態、習慣に合わせて、口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助をしている。清潔保持に対する意識を持ち、対応している。必要時には訪問歯科を利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やその方の動作によってトイレ誘導を実施している。タイミングを見ながら声掛けし、さりげなく誘導している。オムツの方も日中はトイレでの排泄を援助している。	排泄パターンやその方の動作によって、オムツ使用の方もトイレでの排泄を支援している。入居時は、オムツ使用の方が、排泄チェック表や習慣を活かしてのトイレ誘導により、オムツの使用が無くなる事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ1日1,000ml以上を目標に水分補給に心掛けている。散歩や家事活動等、体を動かす機会を作り、自然排便を促すように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。入浴の順番、時間、介助方法等、希望に応じて対応している。又、ゆったりと気持ちよく入浴できるよう配慮している。(一番風呂や長風呂の方等、その人のペースでゆっくりと入られており、楽しみの一つとなっている。)	職員が一方的に入浴の時間帯等を決めず、利用者のその日の希望を確認して支援している。楽しみながら気持ちよく入れるように、声かけや環境にも一人ひとりの状況や体調に合わせた支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して、生活リズム作りを意識的に行っている。寝付けない方には、温かい飲み物を勧めたり、ゆっくりと話を聞く等の対応をしている。その方に応じて起床時間なども考慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表で確認できるようにしている。又、薬箱の薬札に記入。薬の目的、用法等を理解できている。誤薬や飲み忘れがないように毎回日付と名前を確認している。本人の状況により医療受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの楽しみや得意なこと把握し、働きかけている。役割や出番を見出す場面をつくるように支援している。(家事活動、制作活動、歌、デイサービス参加、散歩、買物、外出等)			
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や楽しみごとに合わせて、外出できる機会をできるだけ作っている。美容室やご家族との外出等、その時々状況に合わせて支援している。季節行事(花見等)、野球観戦、外食、ドライブ、日々の散歩、買い物等、希望に沿って実施している。	利用者の希望にそって、車椅子介助で近隣へ散歩に出かけたり、コンビニへ買い物に行く方もいる。また家族との外泊や外出等、状況に合わせて支援している。趣味の民謡の発表会に出かけたり、野球観戦等、希望にそって実施している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布からの支払いを実施している。スタッフは共に支払う等、その方に合わせた支援をしている。一人で買い物に(近くのコンビニ等)行かれていた利用者もいる。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方とのつながりを継続してもらうために電話や手紙の通信を支援している。家族に会いたい等の発言があるときは電話で話して貰っている。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いリビングに普通家庭にあるような一般的な家具を置いている。自由に使ったり、思い思いに過ごせる環境作りに努めている。玄関や壁には季節感を取り入れた飾り付けに心掛け、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	玄関前には、職員の手作りのベンチやブランコが置かれ、心地よい空間となっている。玄関や壁には季節感を取り入れた飾りや、利用者の作品も掲示されている。また、廊下の奥には、電話機が椅子と共に置かれており、自由に使用できる。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルとソファを配置。狭いがいつも皆が集まって、会話をしている。仲の良い方同士でどちらかの居室で過ごしたりと、自由に過ごすことができる雰囲気がある。			
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や鏡台、仏壇等持ち込まれていて、馴染み物品が置かれている。使い慣れた物や思い出の品物もあり、安心して居心地良く、その人らしい落ち着いた居室作りを工夫している。	居室は、利用者の趣味や好みに合わせて、馴染みの家具や調度品が置かれている。仏壇には、ろうそくも飾られており介助のもとにお参りができる。本人が落ち着いてその人らしく過ごせるように工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室等に手摺を設置している。トイレ内は可動式の手摺があり、その人に合わせて利用している。「何が不便であるか。」「どうしたら安全に過ごせるか。」等、確認し、状況に合わせた環境整備に取り組んでいる。			